

2019
講義要綱
SYLLABUS

北翔大学大学院

GRADUATE SCHOOL, HOKUSHO UNIVERSITY

2019年度 北翔大学大学院 学事日程

月	火	水	木	金	土	日	備考
4/1	4/2 在学オリエンテーション	4/3 入学式	4/4 オリエンテーション	4/5 オリエンテーション	4/6	4/7	
4/8 ①	4/9 ①	4/10 ①	4/11 ①	4/12 ①	4/13	4/14	
4/15 ②	4/16 ②	4/17 ②	4/18 ②	4/19 ②	4/20	4/21	
4/22 ③	4/23 ③	4/24 ③	4/25 ③	4/26 ③	4/27	4/28	
4/29 昭和の日	4/30 休日	5/1 祝日	5/2 休日	5/3 憲法記念日	5/4 みどりの日	5/5 こどもの日	教育学科看護教諭コース3年次 看護実習：4/8～4/26 こども学科2年次 教育実習：5/13～5/31
5/6 振替休日④	5/7 ④	5/8 ④	5/9 ④	5/10 ④	5/11	5/12	
5/13 ⑤	5/14 ⑤	5/15 ⑤	5/16 ⑤	5/17 ⑤	5/18	5/19	
5/20 ⑥	5/21 ⑥	5/22 ⑥	5/23 ⑥	5/24 ⑥	5/25	5/26	
5/27 ⑦	5/28 ⑦	5/29 ⑦	5/30 ⑦	5/31 ⑦	6/1	6/2	
6/3 ⑧	6/4 ⑧	6/5 ⑧	6/6 ⑧	6/7 ⑧	6/8	6/9	
6/10 ⑨	6/11 ⑨	6/12 ⑨	6/13 ⑨	6/14 ⑨	6/15	6/16	
6/17 ⑩	6/18 ⑩	6/19 ⑩	6/20 ⑩	6/21 ⑩	6/22	6/23	健康福祉学科(介護)4年次 訪問介護実習：6/18～6/28
6/24 ⑪	6/25 ⑪	6/26 ⑪	6/27 ⑪	6/28 ⑪	6/29	6/30	健康福祉学科(介護)2年次 介護基礎実習：6/26～28
7/1 ⑫	7/2 ⑫	7/3 ⑫	7/4 ⑫	7/5 ⑫	7/6	7/7	教育学科看護教諭コース2年次 看護学臨床実習：7月～9月
7/8 ⑬	7/9 ⑬	7/10 ⑬	7/11 ⑬	7/12 ⑬	7/13	7/14	
7/15 海の日⑭	7/16 ⑭	7/17 ⑭	7/18 ⑭	7/19 ⑭	7/20	7/21	
7/22 ⑮	7/23 ⑮	7/24 ⑮	7/25 ⑮	7/26 ⑮	7/27	7/28	
7/29 補講・試験日(月)	7/30 補講・試験日(火)	7/31 補講・試験日(水)	8/1 補講・試験日(木)	8/2 補講・試験日(金)	8/3	8/4	こども学科2年次 保育実習(保育所)：8月～9月 心理カウンセリング学科4年次 精神保健福祉援助実習：8月～9月
8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11 山の日	
8/12 振替休日	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	
8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	教育学科4年次 保育実習Ⅱ又は保育 実習Ⅲ：8/19～8/31
8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	教育学科3年次 教育実習Ⅰ(幼・小)： 幼稚園8/19～9/6 小学校8/19～9/13
9/2	9/3	9/4	9/5 創立記念日	9/6 5/6の振替休日	9/7	9/8	
9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	健康福祉学科(介護)3年次 介護実習Ⅱ：8/19～9/27
9/16 敬老の日	9/17 7/15の振替休日	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	健康福祉(他)3年次・ 健康福祉(介)4年次 相談援助実習：8月～9月
9/23 秋分の日	9/24	9/25	9/26 オリエンテーション	9/27 大学祭準備	9/28 大学祭	9/29	
9/30 ① 前学期学位記授与式	10/1 ①	10/2 ①	10/3 ①	10/4 ①	10/5	10/6	
10/7 ②	10/8 ②	10/9 ②	10/10 ②	10/11 ②	10/12	10/13	
10/14 体育の日	10/15 ③	10/16 ③	10/17 ③	10/18 ③	10/19	10/20	こども学科2年次 保育実習(施設)：10月～12月
10/21 ③	10/22 祝日	10/23 ④	10/24 ④	10/25 ④	10/26	10/27	
10/28 ④	10/29 ④	10/30 ⑤	10/31 ⑤	11/1 ⑤	11/2	11/3 文化の日	
11/4 振替休日⑤	11/5 ⑤	11/6 ⑥	11/7 ⑥	11/8 ⑥	11/9	11/10	
11/11 ⑥	11/12 ⑥	11/13 ⑦	11/14 ⑦	11/15 ⑦	11/16	11/17	
11/18 ⑦	11/19 ⑦	11/20 ⑧	11/21 ⑧	11/22 ⑧	11/23 勤労感謝の日	11/24	
11/25 ⑧	11/26 ⑧	11/27 ⑨	11/28 ⑨	11/29 ⑨	11/30	12/1	
12/2 ⑨	12/3 ⑨	12/4 ⑩	12/5 ⑩	12/6 ⑩	12/7	12/8	
12/9 ⑩	12/10 ⑩	12/11 ⑪	12/12 ⑪	12/13 ⑪	12/14	12/15	
12/16 ⑪	12/17 ⑪	12/18 ⑫	12/19 ⑫	12/20 ⑫	12/21	12/22	
12/23 ⑫	12/24 ⑫	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	
12/30	12/31	1/1 元旦	1/2	1/3	1/4	1/5	
1/6 ⑬	1/7 ⑬	1/8 ⑬	1/9 ⑬	1/10 ⑬	1/11	1/12	
1/13 成人の日	1/14 11/4の振替休日	1/15 ⑭	1/16 ⑭	1/17 ⑭	1/18	1/19	
1/20 ⑭	1/21 ⑭	1/22 ⑮	1/23 ⑮	1/24 ⑮	1/25	1/26	
1/27 ⑮	1/28 ⑮	1/29 補講・試験日(水)	1/30 補講・試験日(木)	1/31 補講・試験日(金)	2/1	2/2	心理カウンセリング学科3年次 精神保健福祉援助実習：2月～3月
2/3 補講・試験日(月)	2/4 補講・試験日(火)	2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	
2/10	2/11 建国記念の日	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	教育学科3年次 保育実習Ⅰ(保育所)：2/10～2/22
2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23 (天皇誕生日)	健康福祉学科(介護)2年次 介護実習Ⅰ：2/17～3/13
2/24 振替休日	2/25	2/26	2/27	2/28	2/29	3/1	
3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	教育学科3年次 保育実習Ⅰ(施設)：3/2～3/14
3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	
3/16	3/17	3/18 学位記授与式	3/19	3/20 春分の日	3/21	3/22	
3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	
3/30	3/31						

講義要綱 SYLLABUS の利用にあたって

この冊子は、2019年度に開講される授業科目の概要が記載されています。

授業の概要や到達目標をよく確認して授業を選択する参考にしてください。シラバスには、授業の担当教員名や、単位数等の他、次のような事項が記載されています。シラバスに記載された内容をよく理解し、授業に臨んでください。

- ・ 授業のねらい
- ・ 到達目標
- ・ 授業計画
- ・ 準備学習の内容（事前・事後の学習）
- ・ 使用するテキスト（教科書）や、参考書
- ・ 成績評価の方法（どのような基準で評価が決まるのか）
- ・ 質問への対応（連絡先など）
- ・ その他（履修に当たっての特に注意すべき事項が記載されています）

《学習形態》

「授業の計画」各回の右欄に書かれている記号は学習形態を表し、授業の進め方、指導方法を表しています。

学習形態の用語説明

記号	学習形態	概要説明
A	講義	
B	演習	
C	実験	
D	実習	
E	実技	
F	プレゼンテーション	学生が、指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習・実習等を行い、そのことについて他の受講生や教員等聴衆の前で発表する学習方法である。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものやポスターセッションなど様々である。発表後は、聴衆からの質疑に応答する。○○発表会、○○報告会等を含む。
G	レポートライティング	与えられたテーマや課題について調査や実験等を行い、調べた事実やデータを分析して、その過程と結果・考察などを文書にまとめる。あるいは、授業で学習したことを自分の言葉でまとめたり、自分の経験したことや体験したことなどについて、感じたことを理由とともにまとめるなど、知識や経験を自分の力で文書で表現する学習方法である。
H	グループワーク	教員から与えられた課題に対して、小グループ（3人から6人程度が一般的）内で共同作業やコミュニケーションをとりながら学修を進めていく協同学習である。コミュニケーション能力、メンバーが役割を分担した上で相互に協力・協働して課題に取り組む姿勢、自分の意見を主張する力と他人の意見を受け入れる力、決められた時間内に課題を解決して答えを出す力などを養成し、学生が社会に出てから活動するために必要な力を身につける。

I	ディベート	ある公的な主題について異なる立場（肯定側と否定側）に分かれ議論することを通して、第三者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態（討論をする形式）である。 ディベートを通して学生の思考が活性化され、自分の意見や問題意識を持ったり、より論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。
J	事例研究	ある事例について調査・研究し、問題の所在・原因を究明し、どのように対処するか解決策を見出す学習活動である。指導者は、学生の個別または集団研究に対して、研究の場を設定し、具体的な助言をしたり、事例を紹介したり、研究をコーディネートしたりして、学生の研究を導く立場で関わる。
K	ワークシート	授業前あるいは授業中に、学習の課題や問題等を提示した用紙を用い、調べたことや理解したことを確認し、理解の深化を促す学習方法である。また、講義の内容を書き込めるように準備された用紙等で理解の確認を行ったり、ワークシートに記入された個々の考えをもとに、ペアやグループワークで話し合い、学習内容を共有することもある。
L	ふり返り	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。
M	フィールドワーク	社会調査における情報収集技法の一つである。研究者が直接現場へ出かけ一定期間滞在し、人々の生活に密着しながら出来事を観察・記述し、その空間の社会的構造をリアルに分析しようとするものである。 アクティブ・ラーニングの視点から、本学での「フィールドワーク」とは教員が提示したテーマや課題等について、学生が直接現場へ出かけ実地調査や研究等を通して、より深く分析し課題解決に向かうことをねらいとした学習形態である。
N	ロールプレイ	現実にかかる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）をする学習方法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。

教育課程表

臨床心理学専攻 専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数		教員名	展開他	免許・資格	ページ
		2年次					
		前	後				
臨床心理学領域							
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	講義		2	河 岸 由 里 子	集中講義	[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修	53
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	講義		2	山 谷 敬 三 郎		[臨]公認心理師_必修	54
コミュニティ心理学特論	講義	2		小 坂 守 孝	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	55
基礎心理学領域							
生理心理学特論	講義	2		田 村 卓 哉	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	56
発達心理学特論	講義	2		川 俣 智 路		[臨]臨床心理士_選必	57
実 習							
臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ)	実習	←⑧→		風 間 雅 江	事前事後指導を含む 一部集中講義	[臨]臨床心理士_必修、公認心理師_必修	58
				飯 田 昭 人			
				小 坂 守 孝			
				澤 聡 一			
				新 川 貴 紀			
臨床心理実習Ⅱ	実習	←①→		小 坂 守 孝	一部集中講義	[臨]臨床心理士_必修	59
				飯 田 昭 人			
				入 江 智 也			
				風 間 雅 江			
				澤 聡 一			
				新 川 貴 紀			
				齊 藤 美 香			
谷 中 みゆき							
研究指導							
修士論文指導Ⅱ	演習	②		担 当 教 員	集中講義		60
修士論文指導Ⅲ	演習		②	担 当 教 員	集中講義		61

人間福祉学研究科
臨床心理学専攻
2年次

科目名	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)				授業形態	講義	単位数	2	
教員名	河岸 由里子								
授業の目的	ねらい	対人援助の仕事をするには、家族の理解は不可欠である。人は一人で生きてはいない。子どもであればその保護者が、大人であっても育てた親がいる。それぞれの家族は現状に大きく影響している。特に昨今家族は複雑化している。さまざまな家族の形を含め、家族とは何か、家族心理学の発展から家族療法の技法、地域社会や集団・組織への関りも含め事例を多く活用し、演習やDVDを用いながら学ぶ。							
	到達目標	(1)家族を理解することの重要性について認識する。 (2)家族療法の技法の基礎を習得する。 (3)家族のみにとどまらず、地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助、関係性に焦点を当てた援助に関する理論と方法を学ぶ。 (4)心理的援助者としての臨機応変さを習得する。							
授業の計画	第1回	【テーマ】 家族心理学が担うもの 【計画内容】 家族心理学の歴史と理論について基礎的なところを学ぶ。 【準備学習の内容】 家族心理学について、自分なりにどのようなものか文献などを確認しておくこと。					A、H		
	第2回	【テーマ】 家族とは何か 【計画内容】 様々な家族の形態を事例を通して学びながら、家族とは何かについて考える。 【準備学習の内容】 自分なりに、どのような家族の形態があるかについて考えておくこと。ジェノグラムを書けるようにしておくこと。					A、B、J		
	第3回	【テーマ】 家族の見立て(1) 【計画内容】 家族を理解するうえでカギとなる概念について学ぶ。 【準備学習の内容】 家族理解の鍵となるものは何かを考え、何故それらが鍵となりうるのかについても自分なりに考えてみる。					A、H		
	第4回	【テーマ】 家族の見立て(2) 家族という集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法 【計画内容】 家族関係のアセスメントの仕方、考え方、その理論、方法について学ぶ。 【準備学習の内容】 自分の家族の家族関係について考えておくこと。自分の家族について開示したくない場合は、代わりに家族を用意しておくこと。					A、B、H		
	第5回	【テーマ】 家族システム論と地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法 【計画内容】 家族システム論の発展と概要についてと、その応用としての地域社会や集団・組織への心理学的援助の具体的方法や理論について学ぶ。 【準備学習の内容】 システムとはどんなものか、社会における様々なシステムについて考えておくこと。					A、B、G、H		
	第6回	【テーマ】 家族の成り立ち カップル・夫婦 【計画内容】 家族がどのように作られていくか、個からカップルへの変化とその際に起こる様々な問題や軋轢についてとカップル支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 個がカップルになるとどうなるか、変化について考えてみる。					A、H		
	第7回	【テーマ】 親になるということ 【計画内容】 夫婦・カップルが誕生し、そこに子供が生まれることで起こる家族の変化について学ぶと同時に、乳幼児期の子育てで支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 子どもを持つことの意味、子育てについて考えてみる。					A、H		
	第8回	【テーマ】 小学生の子育て 【計画内容】 子どもが大きくなっていくにつれ、他家族との関係や、家族内に様々な変化が生まれる。どのような変化がおき、人はそれにどのように対処しているのか、そして我々支援者にできるこの時期の支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 自分の小学校時代を振り返り、家族と自分の関係、他の家族との関係を考えておくこと。					A、H		
	第9回	【テーマ】 思春期・青年期の子育て 【計画内容】 子育ての終盤に向かい、家族はどうあるべきか。またどのような問題が起こりやすいか。最近の社会情勢から見えるものも含め、その支援について学んでいく。 【準備学習の内容】 子育ての最終目標は何かについて考えておくこと。					A、H		
	第10回	【テーマ】 老年期の家族 【計画内容】 高齢化社会の時代において、老年期の家族が抱える問題と支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 自分の身の回り的高齢者について、その家族とどのような関係性を保っているかを見ておくこと。					A、B、G、H		
	第11回	【テーマ】 家族療法の理論 【計画内容】 家族支援において、家族療法は必要不可欠ともいえる。家族療法の理論についてその概要を学ぶ。 【準備学習の内容】 家族療法について何かしら本を読んでおくこと。					A、B、H、N		
	第12回	【テーマ】 家族療法の技法について学ぶ 【計画内容】 家族療法には様々な技法があるが、その主たるものについて学び、それらを活用して家族支援をどのようにしていくかを事例を通じて学ぶ。 【準備学習の内容】 変化の処方についてどのようなものがあるか、文献をあたってみる。					A、B、H、N		
	第13回	【テーマ】 家族の構造理論を家族理解に生かす 【計画内容】 家族の構造の中で鍵となるものは何か。何をみて、どこに変化の処方をしていくかについて考える。 【準備学習の内容】 第5回で学んだ家族システム論について復習しておくこと。					A、B、H、N		
	第14回	【テーマ】 実践編(1) 【計画内容】 実際に様々な家族面接をロールプレイで実践していく。家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援としての相談、助言指導等への応用演習 【準備学習の内容】 今までの授業の復習をしておくこと。					B、H、N		
	第15回	【テーマ】 実践編(2) 【計画内容】 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する相談、助言、指導等への応用を視野に入れた家族面接演習 【準備学習の内容】 今までの授業の復習をしておくこと。					B、G、H、N		
テキスト	プリントを使用します								
参考書	中金洋子・野末武義・布芝靖枝・無藤清子、2008年、『家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助』、有斐閣ブックス、9784641183674 団士郎、2013年、『対人援助職のための家族理解入門 家族の構造理論を活かす』、中央法規、9784805838600								
成績評価の方法	筆記試験	40%	実技試験	課題評価	40%	作品評価	受講態度	20%	その他
	配分補足			5講義目ごとの小レポート			演習やロールプレイへの参加態度		
質問への対応	質問は授業時間内で対応します。授業でわからないこと、疑問に思ったことはその場ですぐ質問してください。								
資格	[臨]臨床心理士、選必、公認心理師、必修								
その他	集中講義で長丁場になりますが、頑張ってください。また、講師が一方向的に話す授業ではなく、全員参加の授業を考えておりますのでワークなど積極的に参加してください。								

科目名	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)		授業形態	講義	単位数	2	
教員名	山谷 敬三郎						
授業の目的	ねらい	教育分野に関わる公認心理師等の心理職としての実践を学ぶために、学校生活における児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面、及び健康面についての諸問題に関してカウンセリング、コンサルテーション等の諸理論をふまえて、学校という場にふさわしい視点で対処するための理論と方法を活用できるような実習を含めて展開する。特に実習では、「関わりづくりに関する実習」「傾聴実習」「カウンセリングプロセス・コンサルテーション・コーディネーションに関する包括的な実習」をとりあげ、人間関係の中で、子ども自身や援助者、また、組織の問題解決にあたる能力の基盤の獲得を目指す内容とする。					
	到達目標	(1)学校におけるカウンセリングの方法を習得する。 (2)学校におけるコンサルテーションの方法を習得する。 (3)学校におけるコーディネーションの方法を習得する。 (4)学校における心理教育的援助サービスの実践的課題についての知識・技能について習得する。 (5)子どもへの直接的な援助のかかわりについての基本的方法を習得する。					
授業の計画	第1回	【テーマ】オリエンテーション/学校カウンセリングの理論と方法 【計画内容】心理教育的援助サービスの基本的理論と方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第2回	【テーマ】学校で活用できるカウンセリングの理論と方法 【計画内容】認知カウンセリング、ブリーフセラピー、SGE、SST、マイクロカウンセリングの基本的方法を理解する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第3回	【テーマ】学校におけるコンサルテーション 【計画内容】校内委員会の運営、援助チームシートの作成について理解する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第4回	【テーマ】学校におけるコーディネーション 【計画内容】コーディネートの意味、校内資源の活用、専門機関との連携について理解する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第5回	【テーマ】学校における実践上の諸問題と対応 【計画内容】学級担任との連携、保護者への対応、学校組織への介入の方法について理解する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第6回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(1) 【計画内容】非言語的関わり技法(ベーシング、キャリブレーション)について習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第7回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(2) 【計画内容】エンカウンターについてのすすめ方を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第8回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(3) 【計画内容】ロールプレイング、心理劇のすすめ方を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第9回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(4) 【計画内容】質問技法、言い換え、励ましなどの技法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第10回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(5) 【計画内容】感情の反映、コミットメントの方法など、傾聴の方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第11回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(6) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第12回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(7) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第13回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(8) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第14回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(9) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第15回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(10)/まとめと確認 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
テキスト	伊藤美奈子・平野直巳編、2003年、『学校臨床心理学入門』、有斐閣アルマ						
参考書	学校心理士資格認定委員会、2007年、『学校心理学ハンドブック』、風間書房、9874759916256 國分康孝、2002年、『カウンセリングの理論』、誠信書房、4414403081 石隈利紀、1999年、『学校心理学』、誠信書房、4414301491						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			70%			30%
補足				レポート			レポート毎回
質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。						
資格	[臨]公認心理師_必修						
その他	毎時レポートを作成し、次回の冒頭にフィードバックしている						

科目名	コミュニティ心理学特論				授業形態	講義	単位数	2
教員名	小坂 守孝							
授業の目的	ねらい	心理臨床の現場においては、面接室でクライアントを待つだけではなく、生活の場に働きかけ、心の健康づくり全般に関わることが要求されることが多い。コミュニティ心理学とは、個人のみならず個人をとりまく様々な環境に働きかけ、人と環境との適合性を最大にするための実践の学である。本講義ではコミュニティ心理学における基本的な概念と主な実践例を取り上げるとともに、臨床心理士等の心理職によるコミュニティへの介入方法に関する見識を深めることを目的とする。						
	到達目標	(1)コミュニティ心理学の基本的発想について理解を深める。 (2)コミュニティ心理学における諸概念について理解を深める。 (3)コミュニティ心理学における介入方法について理解を深める。 (4)コミュニティ心理学における研究方法について理解を深める。 (5)心理的問題について、対象を個人にとどまらず、集団、コミュニティの枠組で捉える視点を持てるようになる。						
授業の計画	第1回	【テーマ】 コミュニティ心理学の概念 【計画内容】 コミュニティ心理学の歴史背景、定義、理念について学ぶ。 【準備学習の内容】 シラバスならびにテキスト序章「コミュニティ心理学とは何か」を精読のこと。						A、F
	第2回	【テーマ】 人と環境の適合 【計画内容】 コミュニティ心理学における主要概念のひとつである生態学的発想(人と環境の適合、社会的文脈の中での存在としての人間など)について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第1章「こどもと生育環境：人と環境の適合」を精読のこと。						A、F
	第3回	【テーマ】 ソーシャルサポート 【計画内容】 ストレスフルな状況において精神保健に影響を与えるソーシャルサポートについて、諸研究を概観し、ソーシャルサポートネットワーク、ソーシャルサポートの考え方を念頭においた介入方法について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第2章「地域における子育て支援：ソーシャルサポート」を精読のこと。						A、F
	第4回	【テーマ】 コンサルテーション 【計画内容】 コミュニティ心理学における主要な介入方法の一つであるコンサルテーションについて、その種類や特徴、実際の進め方について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第3章「教師との心理学の共有化：コンサルテーション」を精読のこと。						A、F
	第5回	【テーマ】 ウェルビーイング 【計画内容】 コミュニティ心理学の定義そのものにも含まれている概念であるウェルビーイングの考え方、QOLとの関係などについて学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第4章「幸福な老い：ウェルビーイング」を精読のこと。						A、F
	第6回	【テーマ】 予防 【計画内容】 コミュニティ心理学における介入の基本的概念であるところの予防について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第5章「高齢者のヘルスケア：予防」を精読のこと。						A、F
	第7回	【テーマ】 ラベリング 【計画内容】 コミュニティ心理学における問題の捉え方に影響を及ぼす概念であるラベリングについて、基本的な考え方といくつかの場面における適用について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第6章「高齢者神話とラベリング」を精読のこと。						A、F
	第8回	【テーマ】 エンパワメント 【計画内容】 コミュニティにおいて社会的な力を取り戻し自立してゆくプロセスであるエンパワメントの概要や、個人・組織・コミュニティにおける実践について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第7章「障害者の自立：エンパワメント」を精読のこと。						A、F
	第9回	【テーマ】 コミュニティ感覚 【計画内容】 コミュニティに対して人々が持つ態度であり、コミュニティ形成に関わる概念であるコミュニティ感覚について、その要素や精神保健上の問題との関連を学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第8章「地域社会の受け入れ：コミュニティ感覚」を精読のこと。						A、F
	第10回	【テーマ】 セルフヘルプ 【計画内容】 コミュニティにおいて共通の問題を抱えた個人や家族による自助と相互援助であるセルフヘルプの諸機能や有効性などについて学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第9章「当事者・家族の会：セルフヘルプ・グループ」を精読のこと。						A、F
	第11回	【テーマ】 ストレス・コーピング 【計画内容】 心身の安全を脅かす環境や刺激、それに対する心身の諸機能、その対応の結果に関するストレス・コーピングの諸理論とストレスマネジメント介入について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第10章「ストレス社会に暮らす：ストレス・コーピングとマネジメント介入」を精読のこと。						A、F
	第12回	【テーマ】 コラボレーション 【計画内容】 コミュニティにおける諸問題への多面的・多層的な介入のための異職種間の協力を表す概念であるコラボレーションの定義・メリット・課題等について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第11章「多職種との連携：コラボレーション」を精読のこと。						A、F
	第13回	【テーマ】 社会変革 【計画内容】 心理社会的諸問題の解決をめざしたコミュニティ変革のアプローチやそれを取りまく諸問題について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト第12章「現代社会とコミュニティ：社会変革」を精読のこと。						A、F
	第14回	【テーマ】 コミュニティ心理学の展望 【計画内容】 前回までの内容を踏まえ、あらためてコミュニティ心理学がなすべきこと、援助の在り方などについて学ぶ。 【準備学習の内容】 テキスト終章「再び、コミュニティ心理学とは何か」を精読のこと。						A、F
	第15回	【テーマ】 コミュニティ心理学における課題 【計画内容】 現代社会における諸問題について、特にテキストにて取り上げられていなかった部分を中心に、コミュニティ心理学の立場より取り組むべきものを取り上げてゆく。 【準備学習の内容】 前回までの講義内容を復習しておくこと。						A、F
テキスト	植村勝彦、2012年、『現代コミュニティ心理学：理論と展開』、東京大学出版会、4130121073							
参考書	植村勝彦・高富克子・箕口雅博・原裕視・久田満編、2006年、『よくわかるコミュニティ心理学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』、ミネルヴァ書房 日本コミュニティ心理学会編、2007年、『コミュニティ心理学ハンドブック』、東京大学出版会							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分	50%		50%				
補足								
質問への対応	講義内にて指示します。							
資格	[臨]臨床心理士 選必							
その他								

科目名	生理心理学特論				授業形態	講義	単位数	2
教員名	田村 卓哉							
授業の目的	ねらい	生理心理学は、精神と身体におけるさまざまなプロセス間の関係理解を目指す諸研究の総称であり、基礎的な脳・神経科学から環境・経済・臨床などの応用心理学的な領域まで、非常に幅広い研究関心を持っています。特に、近年は脳の活動を計測・可視化する技術が飛躍的に向上したため、急速に研究が拡大・進展している領域でもあります。これらの諸研究の中から、いくつかのトピックを取り上げ、脳と心との関係をあらためて考えることを通して、受講者と共に問題関心を広げ、各自の研究の進展に寄与することを目的とします。						
	到達目標	(1)生理心理学の基本的な問題関心と研究領域を理解する。 (2)脳・神経系の基本的な構造と機能を理解する。 (3)知覚・記憶・学習等、基礎的な心理機能と脳との関係を理解する。 (4)意識と脳活動の関係について、考察を深める。 (5)臨床領域と生理心理学の関係について、理解を深める。						
授業の計画	第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】講義の目標・概要・展開予定について説明をした上で、運営方法について、受講者と相談します。各自の研究関心と生理心理学との接点を考えてみる。 【準備学習の内容】ご自身の研究関心について、簡単に紹介する準備をして来て下さい。	A、B					
	第2回	【テーマ】生理心理学の基礎(1) 【計画内容】心理学の歴史において生理心理学が果たしてきた役割。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A					
	第3回	【テーマ】生理心理学の基礎(2) 【計画内容】生理心理学の様々な研究領域について。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A					
	第4回	【テーマ】生理心理学の基礎(3) 【計画内容】生理心理学で用いる様々な計測技術について。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A					
	第5回	【テーマ】脳と意識(1) 【計画内容】意識水準・睡眠-覚醒について。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A					
	第6回	【テーマ】脳と意識(2) 【計画内容】睡眠障害・睡眠に関わる労働問題について。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A					
	第7回	【テーマ】感覚・知覚の基礎機構(1) 【計画内容】視覚系の基本構造と感覚生理学の基礎。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、C					
	第8回	【テーマ】感覚・知覚の基礎機構(2) 【計画内容】高次知覚と視覚失認。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、C					
	第9回	【テーマ】注意の機構と機能 【計画内容】事象関連電位と注意。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B					
	第10回	【テーマ】記憶と脳 【計画内容】記憶を担う脳内機構と記憶障害。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B					
	第11回	【テーマ】ストレスと脳 【計画内容】心臓血管系を中心としたストレス研究。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B					
	第12回	【テーマ】生理心理学の応用分野(1) 【計画内容】虚偽検出・ヴィジランス・作業負荷。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B					
	第13回	【テーマ】生理心理学の応用分野(2) 【計画内容】精神疾患と脳。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B					
	第14回	【テーマ】生理心理学の応用分野(3) 【計画内容】発達障害と脳。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B					
	第15回	【テーマ】まとめと振り返り 【計画内容】脳と心との関係に関する総合討論(個々の研究関心と関わらせて)。 【準備学習の内容】発表の準備をして来て下さい。	A、B					
テキスト	受講者と相談の上、必要に応じて使用します。							
参考書	J.L. アンドレアッシ、2012年、『心理生理学』、北大路書房、9784762827693 村上郁也、2010年、『イラストレクチャー認知神経科学』、オーム社、9784274208225 E.R. カンデル、2014年、『カンデル 神経科学』、メディカル・サイエンス・インターナショナル、9784895927710							
成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他		
	配分 補足		50%		50%			
質問への対応	メールでの問い合わせ等、開講時に指示します。							
資格	[臨]臨床心理士_選必							
その他								

科目名	発達心理学特論		授業形態	講義	単位数	2
教員名	川俣 智路					
授業の目的	ねらい	発達とは何か、学習とは何かということは対人援助職に関わる際には避けては通れない問題です。すでに様々な機会にこうした点について学んできたことと思います。では改めて、発達する、学習するとはどういうことでしょうか?前にできなかったことができるようになることでしょうか?新たな知識を得ることでしょうか?本講義では、発達とは何かということについて、様々な角度から検討して、対人援助職に必要な「発達観」を各々が持てるようになることを目的とします。				
	到達目標	(1)発達・学習とはどういう現象か、その理論的枠組みを例を挙げながら説明することができる。 (2)発達・学習を援助する際の理論的枠組みを説明することができる。 (3)受講生が経験した事例や、架空の事例について、発達・学習支援の方法を提唱できる。				
授業の計画	第1回	【テーマ】 ガイダンス:発達とは? 【計画内容】 これからの講義の進め方、内容について説明する。発達・学習に関するワークを実施する。 【準備学習の内容】 これまで学習してきた発達心理学、学習心理学の内容をふり返ってくる。	A、F、H			
	第2回	【テーマ】 発達とは何か:個人単位の発達・学習を越えて 【計画内容】 発達・学習を教育や社会・文化との関わりで検討してみる。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第3回	【テーマ】 発達とは何か:路上の算数から学ぶ 【計画内容】 ビデオ「路上の算数」の事例を通じて、発達・学習についての概念について検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第4回	【テーマ】 「発達理論」に関する論争(1) 【計画内容】 「視覚的断崖」や「ハノイの塔」の研究を通して発達理論をめぐる論争について検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第5回	【テーマ】 「発達理論」に関する論争(2) 【計画内容】 「心の理論課題」や「ポボ人形研究」を通して発達理論をめぐる論争について検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第6回	【テーマ】 発達の「偏り」とは:発達障害についての再検討(1) 【計画内容】 発達障害について、その定義や支援について再検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、H			
	第7回	【テーマ】 発達の「偏り」とは:発達障害についての再検討(2) 【計画内容】 発達障害について、その定義や支援について再検討する。 【準備学習の内容】 前の週の議論を踏まえて、適切な支援方法を考えてくる。	A、F、H			
	第8回	【テーマ】 発達支援は何を支えるのか:学習場面の検討(1) 【計画内容】 教室での学習場面の支援事例を通して、発達支援の方法について検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第9回	【テーマ】 発達支援は何を支えるのか:学習場面の検討(2) 【計画内容】 教室での学習場面の支援事例を通して、発達支援の方法について検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第10回	【テーマ】 発達支援は何を支えるのか:新たな学習支援の検討 【計画内容】 これまでの発達・学習支援の検討を踏まえて、あらたな枠組みを学ぶ。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	B、A、H			
	第11回	【テーマ】 語られる発達:ナラティブとはなにか(1) 【計画内容】 発達支援の場面におけるナラティブの分析を通して、発達について検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第12回	【テーマ】 語られる発達:ナラティブとはなにか(2) 【計画内容】 発達支援の場面におけるナラティブの分析を通して、発達について検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第13回	【テーマ】 語られる発達:ナラティブとはなにか(3) 【計画内容】 無知の姿勢の概念について学び、臨床的応用について検討する。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H			
	第14回	【テーマ】 心理的支援は人を成長させるか:ナラティブプラクティスの実際 【計画内容】 実際の心理療法場面の事例を通じて、ナラティブによる実践について学ぶ。 【準備学習の内容】 事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、J			
	第15回	【テーマ】 『発達心理学辞典』を作成する:最終ワークとして学んだ内容をアウトプットしよう 【計画内容】 講義内で取り扱った概念について、辞典の項目の形式でまとめ報告する。 【準備学習の内容】 これまでの講義内容についてふりかえってくる。	B、F、H			
テキスト	プリントを使用するため指定しない					
参考書	アラン・M・スレーター他著 加藤弘通、川田学、伊藤崇監訳、2017年、『発達心理学・再入門 プレークスルーを生んだ14の研究』、新曜社、9784788515215 トレイシー・E・ホール他著 バーンズ亀山静子訳、2018年、『UDL 学びのユニバーサルデザイン クラス全員の学びを変える授業アプローチ』、東洋館出版社、9784491035086 J・ウィンズレイド他著 小森康永訳、2001年、『新しいスクールカウンセリング 学校におけるナラティブ・アプローチ』、金剛出版、4772406867					
成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分		85%		15%	
補足			3, 5, 7, 10, 13, 15回		グループワークへの貢献度	
質問への対応	講師に対する質問などは直接か、メール(E-Mail:kawamata.tomomichi@s.hokkyodai.ac.jp)にてお願いします。					
資格	[臨]臨床心理士_選必					
その他	成績評価は第3回、5回、7回、10回、13回のミニレポート(12%×5)、第15回のみまとめワーク(25%)、毎回の講義内のグループワークや議論への貢献度(1%×15回)で判断します。資料の探し方、ディスカッション、議論への参加の方法、等について疑問や不安がある場合には適宜サポートしますので、その都度教員までお尋ね下さい。 この授業では発達や学習の新たな理論や事例について体験的にワークなどを通して学びます。その方法などについては授業中に教員から教示しますので、事前課題を実施していただく以外は特に予備知識は必要ありません。 様々な事情から評価基準を満たすことが難しい場合には、授業の目的や評価の基準が変わらないような、代替の評価方法を準備できる場合があります。希望者は初回の授業までに教員に相談して下さい。 教員についての詳細なプロフィール、授業の方針、人柄などを知りたい場合には北海道教育大学の教員情報のウェブサイトをご覧ください。					

科目名	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)			授業形態	実習	単位数	8
教員名	風間 雅江、飯田 昭人、小坂 守孝、澤 聡一、新川 貴紀						
授業の目的	ねらい	本実習では、1年次の実習で学んだことを基礎として、さらに公認心理師および臨床心理等の心理職として活動を行う上で必要な態度・技法を修得することを目的とする。担当教員および実習施設の指導者による指導のもと、心理アセスメントや心理面接、および集団心理療法等の心理臨床活動の実際を継続的に体験し、心理臨床の素養を確かなものにするをめざす。さらに、心理的支援を必要とする人およびその関係者への理解とニーズの把握および支援計画の作成等についても実践的に学ぶ。					
	到達目標	(1)心理臨床におけるコミュニケーション、心理療法、心理アセスメント等についての知識を確実にしスキルを高め、心理臨床活動の実践に応用する。 (2)心理的支援を必要とする人およびその関係者への理解を深め、そのニーズを把握し、支援の方針ならびに計画をたてる能力を習得する。 (3)心理臨床の現場におけるチームアプローチ、多職種連携、および地域連携についての理解を深める。 (4)心理職としての職業倫理および法的義務を正しく理解する。					
授業の計画	<p>【計画内容】</p> <p>【概要】</p> <p>保健医療分野の学外実習施設として、精神科病院、総合病院、精神科クリニックのいずれか1か所の医療機関において60時間、学内実習施設として、本学臨床心理センターにおいて240時間、合計300時間を基準とした実習を行う。ただし、基準時間を上回って行われることがある。実習は時間割に記載された時間以外にも学内外で行われる。</p> <p>事前指導は、実習施設での実習の準備として、1年次実習での体験をふまえて、ロールプレイなどにより面接技法の実技指導を行う。</p> <p>実習は、本学臨床心理センターにおいては、ケース担当教員の指導のもと、思春期・青年期・成人期・高齢期のクライアントの心理面接や心理アセスメントおよび幼児・児童のプレイセラピーや心理アセスメントを行う。学外実習施設での実習内容は、実習先の病院によって異なるが、実習指導者および巡回指導教員の指導のもと、成人を対象とした心理面接および集団精神療法、思春期・青年期のクライアントの心理面接、心理アセスメント等を予定している。</p> <p>学内外の実習施設で担当ケースを継続的に担当するプロセスにおいて、ケース・フォーミュレーションに取り組み、クライアントをより深く理解し、有効な心理的支援の方法を精査するための検討を行う。</p> <p>実習と並行して、全教員および1年次2年次全大学院生が参加するケースカンファレンスを頻度多く行い、担当ケースについて発表し、討議に参加する。</p> <p>臨床心理センターが行う地域貢献事業にも参加し、地域の相談・研修拠点としての役割を学ぶ。</p> <p>【準備学習の内容】</p> <p>指導教員の指示に従い、実習にかかわる必要事項を整理すること。学外実習先の特徴、想定される対象等について、事前に情報を収集し、準備にあたること。</p> <p>【事後学習の内容】</p> <p>毎回の実習の振り返りの内容を実習日誌に記載し、心理的支援のあり方について洞察を深めること。実習報告会およびケースカンファレンスで学んだ多面的理解について論点を整理し、洞察を深めること。</p>						A、D、G、 I、J、L、 N
テキスト	オリエンテーション時に、実習要綱を配付します。また、指導内容に応じて追加資料を配付します。						
参考書	別途、案内します。						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分補足			60%		40%	
質問への対応	初回講義時に説明します。						
資格	[臨]臨床心理士_必修、公認心理師_必修						
その他	学外実習施設の実習日程は、各実習施設により異なります。詳細決定後、各担当教員と具体的な打合せを行います。						

科目名	臨床心理実習Ⅱ				授業形態	実習	単位数	1
教員名	小坂 守孝、飯田 昭人、入江 智也、風間 雅江、澤 聡一、新川 貴紀、斉藤 美香、谷中 みゆき							
授業の目的	ねらい	本実習では、心理職としての成長に不可欠なスーパービジョンを継続的に受けることを通して、心理臨床の実践にかかわる適切な認識や洞察を得ることをめざす。心理臨床の経験豊かな学外スーパーバイザーおよび学内指導教員をスーパーバイザーとして、実習生はスーパーバイザーの立場から、現場実習での体験から生まれた問題を解決し、自己覚知を深めるために、スーパービジョンを受ける。						
	到達目標	(1)スーパービジョンを通して、心理臨床家として望まれる態度、技術的能力について再考し、自分自身の資質、技量について問う姿勢を身につける。 (2)臨床現場での体験(出来事)を、多面的な視点で捉え、考察できることを目指す。						
授業の計画	【計画内容】 【概要】	主に学内外の実習施設で体験した臨床実践について、学内外のスーパーバイザーから、通年で45時間のスーパービジョンを受ける。学生個々の学内外の実習の進捗状況に応じて、原則として個別、場合によっては集団の形態で(グループスーパービジョン)展開される。 スーパービジョンのテーマは、臨床実習における担当ケースに関する心理療法やアセスメントに関する内容に限らず、臨床場面におけるスーパーバイザーの発言、態度、ふるまい、思考、感情といった面接場面でおこるあらゆる内容が含まれ、検討される。スーパービジョンを通して、スーパーバイザーは、それまで自身では気づかなかった側面についても自己理解を深め、心理臨床に及ぼす自身の有り様の影響についても考察する。そうしたプロセスを経て、クライアントへのより深い理解、クライアントに即した適切な関わり方について学んでいく。						J、L、G
	【準備学習の内容】	あつかわるテーマについて問題を整理し、必要なレジュメ等を作成し、準備にあたること。						
	【事後学習の内容】	毎回、スーパーバイザーから受けた助言やコメントを参考に振り返りを行い、実習日誌を作成し次回への手がかりとすること。						
テキスト	オリエンテーション時に、実習に関する要綱を配付します。また指導内容に応じて資料を配付します。							
参考書	指導内容、学習項目に則して、授業時に文献を紹介します。							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			60%		30%	10%	
	補足			所定の用紙あり			実習日誌綴	
質問への対応	内容に応じて、直接面談、電話、メール等、適切に対応します。詳細は、初回授業時に説明します。							
資格	[臨]臨床心理士_必修							
その他	スーパービジョンは個別あるいは集団で行います。フィードバックは都度、行います。							

科目名	修士論文指導Ⅱ			授業形態	演習	単位数	2
教員名	担当教員						
授業の目的	ねらい	修士論文作成をねらいとする。以下の5つのプロセスにしたがって進める。 ①先行研究を熟読する。クリティカルリーディングを行い、問題意識を明確にする。 ②研究のテーマを設定する。 ③研究の方法を考え、研究計画を立案する。 ④データを収集する。 ⑤データ分析する。					
	到達目標	(1)問題意識を明確にし、研究テーマを設定する。 (2)研究の方法を考え、研究計画を立案する。 (3)データを収集し、分析する。					
授業の計画	【テーマ】	第1回:ガイダンス 第2回～第4回:先行研究のレビューと研究目的の明確化 第5回～第7回:合理的な研究手法と研究計画の立案 第8回～第9回:研究計画の発表 第10回～第13回:データの収集 第14回～第15回:データの分析とディスカッション					
	【計画内容】	第1回:修士論文作成のための手順、ポイントを概説する。 A、B、G 第2回～第4回:先行研究で得られている知見を整理し、新たに解明しようとすることを焦点化し、研究目的を明確に設定する。 B、F、G 第5回～第7回:目的に見合った合理的で倫理的配慮の検討がなされた研究手法を考案し、具体的な研究計画を立案する。 B、F、G 第8回～第9回:修士論文作成プランおよび研究計画を発表し、議論する。 B、F、G 第10回～第13回:データを収集する。 B、G 第14回～第15回:データの分析、分析結果の整理、仮説に照らした考察を行う。 B、F、G					
	【準備学習の内容】	第1回:「修士論文指導Ⅰ」で修得した内容をもとに、大まかな研究計画を作成する。 第2回～第4回:先行研究を収集し、何が明らかになっているのか、何がのこされた課題かを考え、研究目的を明確にする。 第5回～第7回:先行研究、具体的方法までも含めて、レポートを作成する。 第8回～第9回:研究計画、用いる研究手法の詳細についてレジュメおよびスライド資料を作成し、発表の準備を行う。プレゼンテーションを行い、質疑応答を通して、研究計画の性差および必要に応じた修正を行う。 第10回～第13回:研究手法に準じて、質問紙やインタビューガイド等の準備を行い、実際に調査を実施する。 第14回～第15回:収集したデータに対して、コンピュータ処理等を行い、分析する。					
テキスト	各担当教員より適宜指示します						
参考書	各担当教員より適宜紹介します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			60%		40%	
	補足			レポート		発表	
質問への対応	各担当教員より説明します。						
資格							
その他							

科目名	修士論文指導Ⅲ			授業形態	演習	単位数	2
教員名	担当教員						
授業の目的	ねらい	修士論文の完成、最終的な研究成果を研究発表会や学会等で発表することをねらいとする。以下の7つのプロセスにしたがって研究成果をまとめる。 ①先行研究で得られた知見の整理を通して問題意識を明確に述べる。 ②研究のテーマと意義を明確にする。 ③合理的で妥当な研究方法を選択する。 ④データを収集する。 ⑤データを分析する。 ⑥論文を執筆する。 ⑦論文を発表する。					
	到達目標	(1)データを収集する。 (2)データを分析する。 (3)分析結果をまとめ、論理的に考察する。 (4)論文を執筆する。 (5)研究成果を発表する。					
授業の計画	【テーマ】	第1回:ガイダンス 第2回～第4回:データの収集 第5回～第6回:データファイルの作成 第7回～第8回:データの分析 第9回～第10回:結果をまとめ論理的に考察する。 第11回～第14回:論文を執筆し完成させる 第15回:論文を発表する					
	【計画内容】	第1回:修士論文作成のための手順、ポイントを確認する。 A、B、F、G 第2回～第4回:データ収集のための準備を行う。 B、G 第5回～第6回:集めたデータに対して、量的研究あるいは質的研究それぞれに応じ、適切な分析手法によってデータファイル化あるいはコード化等を行う。 B、G 第7回～第8回:ファイル化やコード化等の加工がなされた量的あるいは質的データに対して、研究デザインに応じた分析を進める。 B、G 第9回～第10回:出力結果を図表等にまとめ、考察を行う。 B、F、G 第11回～第14回:得られた知見をもとに、論理展開の順序、事実と意見の区別に留意しながら、論文を作成する。ディスカッションを通して考察を深める。 B、F、G 第15回:修士論文発表会にむけてプレゼンテーションの準備を行う。 B、F、G 【準備学習の内容】 第1回:研究計画の精査と確認を行う。 第2回～第4回:実験材料の準備、質問紙の作成、調査依頼等を検討する。 第5回～第6回:データの確認、欠損値の処理等を行う。 第7回～第8回:出力結果について妥当な結果が得られたかどうか等を検討する。 第9回～第10回:何が明らかになったか、具体的事実を確認し、考察を行う。 第11回～第14回:得られた事実から、何がいえるか、何がわからないかを考える。論文執筆を進める。推敲を繰り返し、論理的で明快な表現になっているか等をチェックする。 第15回:研究発表にむけてレジュメやスライド資料を作成する。					
テキスト	各担当教員より適宜指示します						
参考書	各担当教員より適宜紹介します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			60%		40%	
	補足			レポート		口頭発表	
質問への対応	各担当教員より説明します。						
資格							
その他							

講義要綱
SYLLABUS
北翔大学大学院

2019年4月 発行
北翔大学・北翔大学短期大学部
〒069-8511 江別市文京台23番地
TEL (011) 386-8011
FAX (011) 387-1542

